

わたしの仏教2

さて、お釈迦様はなに悟ったのか。なにを仏教として教えたのか。

「母縁起」（因縁生起）—すべてのモノゴトはなにかの原因、または間接的原因（各種条件）によっておこる。なにかのかわりによつてものは成立している。換言すれば、なものも、そのもの単独ではあり得ない。

これ有るがゆえにかれ有り。

これ生ずるがゆえにかれ生す。
これ滅するがゆえにかれ滅す。

などと表現されました。

有形・無形（有為法・無為法）すべての存在は互いの影響力のなかで存在する。なものもそのもの単独では存在しない。目には見えないけれど無量無辺の「ささえ」「お陰さま」のなかで初めてあり得る。わたし一人のちからなんかではないのだよ。

また、半面、今有る関係性が崩れたら今のありようはたちまちどのように変化するとも知れない。「無常」こそすべてのものがありよう。すべてのものは流動変化の予想のなでこそ成立する。「諸行無常」。また、いつもかわらぬなにか（個我）なんてないんだよ。

ワタシノ、ワタシガ、は迷いの根元。煩惱・迷惑・苦惱の根元。「諸法無我」（あらゆるものは個我なし）。

だから後世、多くのお経に
諸行無常、諸法無我、是生滅法（いろは句
へど散りぬるを、わが世たれぞ常ならむ）
生滅滅已、寂滅為樂（有為の奥山今日越えて
浅き夢見じ醉ひもせず）。

釈迦最初の説法「初転法輪（じょてんぽう）」も
要はこのことであった。

四諦（したい）（四つの真理）と八正道（はつ
しょうどう）。

- 1、苦諦（くだ）苦の現実をしつかりと見極めよう。いわゆる四苦八苦（生・老・病・死・愛別離苦（いとしい者と別れる苦）・怨憎会苦（にくしみあいながら一緒にくらす苦しみ）・求不得苦（ほしいものが手に入らぬくるし）・五蘊盛苦（この肉体あるがための苦み）。
- 2、集諦。それら苦のよつて来る原因を見よう。
- 3、滅諦。苦の原因を見極め乗り越えよう
- 4、道諦。「八正道」とはこれら「人生苦」を克服するための方途。正しい感受・正しい見解・正しい表現・正しい思考など八つの修行。

「わたし」を含めて、のみな、因縁によるものであり、すべて無常であり無我である現実をしつかりと見ましょう。ものに固執する、私に執着することは迷惑苦惱の根源、煩惱そのものだよ。

この見解にたち、正しい人間関係をめざす道。お釈迦様は、**上八度反の行**を指摘した。

布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧。
また、智慧と慈悲、方便を勧めました。

慈悲悲のこころ。
マイトリリー（友として）・カルナー（呻く）の身になつて思いやること。「人

「抜苦・与樂」（他者の苦しみを抜き、樂を与える」と訳した。
「人の身になつて呻き悲しむ」が一番原義に近いと思われます。

「思いやり」「おもてなし」の心がその根幹かとおもいます。

人の心を読む心理学では
1、こちらが、相手のこころを解釈理解して（夢判断のように）その治療法を見いだす。

2、あくまでも来談者本位。ただひたすら来談者のこころを傾聴尊重するのみ。治療も回復も来談者の主体に従う。

（前住職）

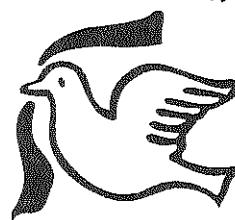
戦没者追悼法要

先の大戦でお亡くなりになつた方々の追悼法要を勤修いたします。皆さん、お参りください。法要の後、今年は、但東町高橋村の満州開拓団のお話を紙芝居で紹介していただきます。

日時 八月八日（金）

受付 午後一時三〇分
開会 午後二時

内容	法要
・戦没者呼名	・喪白
・正信偈	
紙芝居	
「国策に散つた 满州開拓団の夢」	

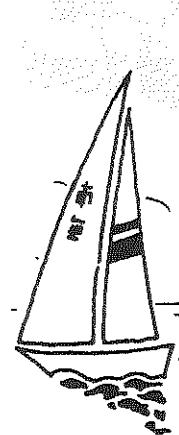


室内楽ミニコンサート

兵庫芸術文化センター管弦楽団による室内楽のミニコンサート（4～5人）を勝林寺本堂で演奏披露していただきます。入場無料

日時 九月六日（土）午後一時から二時（約50分）	（アウトリーチ）	十二日（火）	中田宅 初盆
		十三日（水）	盆 出石B
		十四日（木）	稲葉保夫宅 三回忌
		十五日（金）	数森宅 初盆
		十六日（土）	生田俊雄宅 初盆
		一九日（火）	中島利一宅 忌明
		二六日（火）	平野睦美宅 初盆
		二六日（火）	勝林寺 子供会
		三一日（日）	出石組連研（福成寺）

*先月号で「ひよつといたら、監督の佐渡裕さんがこられるかも」と書きましたが、その時間市役所での用事が重なつたため来場はなさそうです。期待させてごめんなさい。でも、阿弥陀様と管弦楽のコラボは、必見の価値あります。	二 日（土） 西宗寺前住職 満中陰速夜
1、こちらが、相手のこころを傾聴尊重するのみ。治療も回復も来談者の主体に従う。	三 日（日） 西宗寺前住職 満中陰法要
四諦（したい）（四つの真理）と八正道（はつしょうどう）。	三 日（日） 大石和美宅 一周忌
（前住職）	四 日（月） 出石組 連研委員会



八月 勝林寺 予定

二 日（土） 西宗寺前住職 満中陰速夜

三 日（日） 西宗寺前住職 満中陰法要

三 日（日） 大石和美宅 一周忌

四 日（月） 出石組 連研委員会

五 日（火） 但東町 人権講演会

六 日（水） 古田宅 忌明法要

七 日（木） 出石組 総代会役員会

八 日（金） 勝林寺 戰没者追悼法要

九 日（土） 岩上 悟宅 初盆

十 日（日） 仲義宅 初盆・七回忌

十一日（月） 山田昭一宅 7回忌

十二日（火） 盆 出石B

十三日（水） 盆 出石C

十四日（木） 稲葉保夫宅 三回忌

十五日（金） 数森宅 初盆

十六日（土） 生田俊雄宅 初盆

一九日（火） 中島利一宅 忌明

二六日（火） 平野睦美宅 初盆

二六日（火） 勝林寺 子供会

三一日（日） 出石組連研（福成寺）

坪口 中島末子様 九十歳

葬儀

六月二十九日

盂蘭盆

関東では七月十五日、関西では八月十五日、日本全国でいろいろなお盆の行事が行われます。「精霊流し」「盆踊り」「地蔵盆」など。

孟蘭盆とはいってたいどんなことでしようか、表(やまと)に対する裏(うし)ではありません。古いイングのことは「ウラン・バナ」の漢音表記です。意訳すると「さかさにつりかかる」という残酷なことがらを示す言葉です。

チベット密經というお經にある田蓮(タリーン)インド名モッガラーナという人にまつわる説話に由来します。

さてその目蓮は、もと懷疑主義的なハテモ
ン哲学の派のリーダーでしたが、お釈迦さま
に出会ってそのお弟子となり、神通第一と称
されて、生涯お釈迦さまを擁護し常隨の弟子
となりました。

目蓮は若い頃はただ何も忘れて勉学修行ひ
とすじに励んだ人でしたが、壯年になつては
じめて、今は亡き母のことが心配になりました。
身につけた天眼通・他心通など神通力を
駆使して亡き母の行方を訪ねました。

母は地獄に墮ち「さかさづり」の責め苦を
うけていること。そしてその原因は、わが子
目蓮を養育するためおこした貪欲や瞋恚・愚
痴などの罪・煩惱のむくいであることを知り
ました。母の、子故に墮ちる地獄。はじめて
それを知った目蓮はその母を救うてだてをお
釈迦さまにたずねました。それに対してもお釈
迦さまは「懺悔・供養」しかないとを説き
ました。「いまは夏安居(ダニゴ)。弟子大衆と
共に懺悔供養せよ

夏安居（げあご）とは、春から夏にかけての三ヶ月間、インドは雨季。外での修行はできなければかりか、伝導や托鉢などで出歩くと気づかぬ虫や植物を踏み殺す。もののいのちを知らぬうちに奪う危険もある。だからこの三ヶ月間は洞窟や大樹の陰で瞑想修行せよと勧めます。そしてその最終日。八月の満月（十五日）の日を「自恣（ジジ）」——反省懲悔の日——

とさだめ、銘々の学問修行の反省。いまとあるいのちの懺悔をすすめました。

母や父。私の今あるいのちの因縁。」恩に報いる生き方を、わたしはしているのか。お念佛のなかでお互い問うことが「お盆」のころだと教えるのです。

今年の「お盆」を、めいめいのことを述べてお過ぎください。これが「盂蘭盆」の意義です。

貌
ばく



梓

法語カレンダー八月
(H.P.より抜粋)

大正二年一月一日

三
一
年

どうやん

今年も「お盆」の時期が巡ってきました。禅宗の一派家庭で育つた私は、

小さい頃から「お盆には亡くなつたおじいちゃんやおばあちゃんが帰つてくるで」と教えられて育ちました。だから、年に一度のこの機

提灯をかざつたりして、帰つてこら
とお迎えするお手伝いをしたもので
す。世のことなど顧みることなく暮してい

て真宗のお寺に嫁ぎ、同じ仏教であつた。いろいろ違ひのあることを知りました。

なると、真宗の（亡くなられた方は、
ごまとなられた後、迷いの世の私たち
へ、お二歩へこへござるか）

通り 常に憐いてくれたさう) とレ
子どもの頃のお盆の思い出との間に
感じていました。

が、最近目にした資料の中に、「お盆の盆が帰つてくる」という教えは、仏教のよく、日本に仏教が伝わる以前からあ

によるものである」の一文を見つけました。後に伝わってきた仏教の行事として、「が結びついたものだそ�です。大

「おもてなしする日本人の心と仏教がうなつたのでしょうか。」なるほどそういうことだ。

「はり、先祖はお盆だけ帰つてこられはないんだな」しかし、いざれにしてに対する深い感謝の気持ち」が根底に

あります。今ある「わたしのいのち」の先人とのつながりの中にあること、おかげで仏法に遇うことができたこ

にありがたいことです。迷いの現世をたちを三百六十五日休むことなく見守

できない特別なおもてなしを用意してくださる。仮さずにお盆の期間からそうでない日も、感謝の気持ちを「南」へ」とお伝えしましょう。（文責 坊守）